

NHKの週刊こどもニュースでお父さん、お母さん役を好演されている、NHK解説委員・鎌田靖さんと女優・はしのえみさんを最高裁判所にお招きして座談会を開催しました。



座談会～分かりやすさを

■ 分かりやすい説明の難しさ

長官 裁判員裁判では、裁判官が裁判員に裁判の手続や法律の内容を分かりやすく説明する必要があります。しかし、これはなかなか容易ではありません。本日は、NHK「週刊こどもニュース」の鎌田靖さん、はしのえみさんをお迎えして、難しいニュースを子供にも分かるように解説する番組のノウハウなどをお伺いできればと思っています。さて、大野さんと豊島さんは、裁判員裁判の模擬裁判などを経験していると思いますが、裁判員に対する説明はうまくできましたか。

大野 私が参加した模擬裁判では殺意の有無が問題となったのですが、裁判員役の皆さんは「殺意」というと恨みを抱いて計画的に殺害したような場合をイメージする方が多く、どのような場合に殺意が認められるかについての

説明に苦労しました。また、初めてお会いする方々とどのようにコミュニケーションを取るかという点にも難しさを感じました。

豊島 模擬評議での経験なのですが、裁判員役の皆さんに、「酌量減輕」や「執行猶予」など、ふだん私たちが当たり前のように使っている法律用語を分かりやすく説明するのに苦労しました。また、裁判官と裁判員が一つのチームとして意見を言い合うことができるための雰囲気作りも、裁判官の重要な役割であると感じました。

■ 「週刊こどもニュース」はなぜ分かりやすいのか

長官 「週刊こどもニュース」は何度か拝見していますが、とても分かりやすいですね。難しいニュースについての解説を聞いて、ストンと胸に落ちる感じがあります。



【島田仁郎】
最高裁長官。
昭和39年判事補任官。
平成18年10月から現職。



求めて～

鎌田 ありがとうございます。番組では難しい世の中のニュースを子供でも分かるように解説するのですが、それには2つの柱があります。1つは、難しい言葉を易しく言い換えることです。最近の例では、「後期高齢者医療制度」は「お年寄りの保険」、ガソリンの「暫定税率」は「とりあえずの税」と言い換えました。正確ではありませんが、伝わらなければ意味がないので、あえて分かりやすさを優先しているのです。もう1つの柱は、模型を使い、目で見て分かるようにすることです。模型がうまくできていれば、説明は不要と言っても過言ではありません。私が番組でやっていることと、裁判員裁判に向けた分かりやすさのための取り組みは、重なる部分が多いと感じています。裁判員に対しては、厳密な説明をする

よりも、情報を取捨選択し、それをどのように示すかを工夫することが大切なのではないでしょうか。

はしの 易しい言葉で説明するのは難しいですね。私も、子供たちから「政府って何？」と聞かれて、どうかみ砕いたらいいんだろうと戸惑ったことがあります。また、模型について言えば、番組の模型はとてもよくできていて、私などそれを見た印象でニュースの意味を理解することすらあります。同じことを説明するのでも、説明の仕方によって、どれだけ頭に入ってくるか、どれだけ印象に残るかが違ってくるように思います。

長官 専門家は難しい言葉を使いがちです。そうしなければ不正確になるとか、易しい言葉では説明できないとか思うからですが、でも実はそれは錯覚で、本当はそうの方が楽で



【はしのえみ】

タレント・女優。鹿児島県出身。テレビのバラエティ番組、ドラマを中心に、舞台、CM、ラジオまで幅広く活躍。平成20年から「週刊こどもニュース」のお母さん役を務める。

あるとか、自分が十分理解していないとかいうだけなのかもしれません。「殺意」や「政府」についてうまく説明できないとすれば、それはその中身を本当は分かっていないからではないのでしょうか。「子供に説明できないのに、本当に分かっていると言えるのか」ということですよね。実は、私たちも難しい法律用語を裁判員に説明するためには、原点に立ち返って本当に自分が理解しているのかを考え直すことから始める必要があるのではないかと考えています。お二人のお話を伺っていると、反省させられることが多いですね。

鎌田 私も、司法記者時代には、あまり「分かりやすさ」については重視していませんでした。「週刊こどもニュース」を担当して今年で4年目になりますが、初めのころは番組に出るのが嫌で嫌で仕方ありませんでした（笑）。「何で子供たちのためにこんなことまで説明しなければならぬのか」とか、「何でお芝居なんてしなければならぬのか」などと思っていました。しかし、

今では、これがどれだけ大事なことが分かり、いかに分かりやすく伝えるかに力を注いでいます。

大野 番組での説明の仕方は、皆さんと一緒に考えるのですか。

鎌田 放送前日の金曜日に、私が書いた原稿や模型を使って、お母さんや子供たちにプレゼンテーションをするのです。うまく理解してもらえない場合は、説明の仕方を変えたり、模型を作り直したりします。子供たちは視聴者の代表ですから、最終的に子供たちからOKが出ないものは放送では使わないことにしています。

長官 そのような苦労を重ねた末に分かりやすい番組ができるわけですね。

■ 裁判所や裁判官に対する印象

長官 はしのさんは、裁判所や裁判官に対してどんな印象をお持ちでしたか。
はしの 申し訳ありませんが、裁判所というと「遠い場所」というイメージで、決して身近な印象はありませんでした（笑）。裁判所へ来たのは今回が初めてですし、これまで裁判官にお会いする機会もなかったので、無機質な人



【鎌田 靖】

NHK解説委員。福岡県出身。昭和56年NHK入局。平成17年から「週刊こどもニュース」のお父さん役を務める。